

出題分析		
試験時間 100 分	配点 100~200 点	大問数 4 題
分量（昨年比較）〔減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加〕	難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 <span style="border: 1px solid black;">難化</span> 〕	
<b>【概評】</b> 今年も例年通り，記述形式の問題が 4 題出題された。 昨年は例年より易しかったが，今年は昨年より難しい問題が増えた。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	式と証明，数列 ・不等式の証明 ・数学的帰納法	(1)は，確保すべき。 (2)は，丁寧に計算を進めると示せる。 (3)は，(2)を利用しながら，数学的帰納法で示すとよいだろう。	標準
2	微分 ・最大値，最小値	(1)は，計算ミスをせず進められるかがポイント。 途中，3乗根が現れるので注意したい。 (2)は，(1)に帰着できることを見抜きたい。	標準
3	方程式，三角関数 ・定数分離 ・三角関数の計算	(1)は，定数分離して考えるとイメージしやすい。 なお，2次方程式に言い換えて説明してもよいだろう。 (2)は，三角関数の計算力が問われる。 (3)は，結果は見えるだろうが， $\alpha$ ， $\beta$ が動きうる範囲を必要十分で説明するのは難しい。	やや難
4	積分 ・立体の体積	(1)は，落とせない。 (2)(3)は，与えられた点の位置，断面の様子が把握できれば難しくない。しかし，図形が苦手な受験生は苦労しただろう。	標準

合格のための学習法

例年はⅢ分野を中心に、標準よりやや難しい問題が多く出題される。また、図形、関数、論証など広範囲の内容を含むのでバランスよくやや難しい問題まで演習することが大切である。なお、解答用紙とは別に4枚の白紙（B4サイズ）が与えられるので、十分に計算用紙を使い、答案を簡潔にまとめる訓練も大切である。

今年は、**1** (1), **2**, **4** (1)をミスなく確保したい。その上で計算を正確にして、残りの問題に取り組んで7割に近づくと合格圏に入るだろう。